

釧路自主夜間中学「くるかい」

開校から8カ月

活動の歩みと今後

釧路自主夜間中学「くるかい」が昨年5月に開校して約8カ月が過ぎた。これまで、幾度となく会議を重ね、ゼロからの立ち上げに奔走してきた市民ボランティアたち。彼らのこれまでの動きから、今後の展望を探った。

戦中戦後の混乱や家庭の事情、不登校などで学齢期に十分学べなかった人に学びの場を提供しようと昨年5月、道東では初となる釧路自主夜間中学「くるかい」が開校した。毎週火曜日、釧路市総合福祉センターで活動している。学習者一カ月の会費は500円。現在は平均20人余りが通っている。

学習者を支援するボランティアスタッフは60人(2009年12月現在)おり、このうち現在は80人余りが毎週会場に足を運ぶ。メンバーは元教員や会社員、主婦、学生など多岐多彩だ。

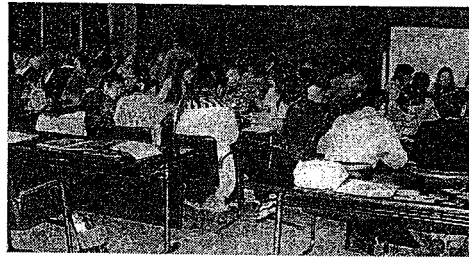
行政、他団体と連携を

一昨年の11月から世話人代表として、準備会を立ち上げた。

話題を提供し続けてきたのは、道教育大学釧路校講師の添田祥史さん(31)。現在は事務局長を務め、主に運営にかかわっている。

学びの場 交流の場

プレオープンにはたくさんの方が集まった(昨年4月7日)「くるかい」提供



一昨年9月に来釧するまで、北九州市の自主夜間中学「青春学校」のスタッフだった。国勢調査(2000年)により釧路地域に2677人暮らしとされる小学校未修習者に「学ぶ権利」を保障し、「共に学び合うこと」を目的に、会を立ち上げ約1年、スタッフも固定され「内部は固まってきた」と語る。「今後は今以上に行政や他の団体などと連携し発展させていければ」と展望する。

生活保護受給者を多く抱える釧路市も準備段階から注目していたが、昨年4月、市生

支援スタッフ奔走 話し合い重ね土台づくり

かいが)落ち着きこれから学習者同士の交流が増えればいい」と期待している。

10-70代の学習者はほとんどが登校日数に達していないのに卒業証書をもらっている形式卒業者(義務教育を修了した人)だ。中には、「自分のことをほかの人に知られたくない」という人もおり、少人数クラスを設けるなどした。開校当初、学習者の個人情報(添田さんと賀根村さんを中心に事務局のみで管理してきた)。

しかし、それがほかのスタッフから「運営が不透明」情報が見えずどう対応していいかわからない」など不安や不満の声につながってしまった。そんな中「(同6月末に)全員で、思いを話し合う場を持つ

ペアからグループ学習に

くるかいの学習スタイルは、同12月1日まで原則ペア学習で行ってきた。ペア学習は、お互いの信頼関係を築くことができる。しかし一方でどちらかが欠席した場合はそれができず、混乱することがた



月に一度、学習者が帰った後スタッフ会議が始まる(昨年11月24日)

てたことが大きかった」と、賀根村さんは話す。

しかしスタッフからの、でもね、で気付かされる。話し合いを重ねて行錯誤しながらやっていきたい」と語る。

各教科の教材作りはおおむね完了し、すでに数学や国語ではこれを使って学習を行っている。国語は、文章の作り方を段階的に覚えるものや、日常よく目にする漢字や言葉、文章の中から習得できるような教材だ。担当しているのは東京都の公立夜間中学の元教員だった梅津陽子さん。梅津さんは「グループ学習になり

同じ教材を使うことで、しばらく来なくなった人も来るよつになれば」と期待している。

「(これらを踏まえ、同12月8日からはペア学習から国語、英語、数学(算数)に分かれたグループ学習に切り替わった

初めての学習会昨年5月12日



釧路自主夜間中学「くるかい」のあゆみ

※()内は場所。1月以降は予定

2008年	11月8日	映画「にんげん」自主上映会(釧路市生涯学習センター)
	11月15日	第1回「釧路に夜間中学があったらな」懇談会(同)※第2回は12月11日
2009年	1月15日	「自主夜間中学」設立釧路準備会発足(道教育大学釧路校)※4月まで同センターで全9回会議
	2月13日	名称が釧路自主夜間中学「くるかい」に決定、学習者の本格募集始まる
	3月17日	スタッフ研修会(釧路市総合福祉センター)※3月中全3回
	4月2日	ブログ開設
	4月6日	プレオープン(同)※4月中全4回
	5月9日	開校記念事業(釧路市生涯学習センター)
	5月12日	学習スタート(釧路市総合福祉センター)
	6月19日	第1回運営会議(同)※以後毎月1回
	6月30日	第1回スタッフ全体会議(同)
	7月3日	釧路市から「市民団体協働補助金(20万円)」の採択を受ける
	7月21日	親ぼく交流会(同)
	8月11日	夏休み(18日も)
	9月8日	学習者の集い(同)
	9月27日	第2回スタッフ全体会議(同)
2010年	12月8日	グループ学習開始
	12月22日	総会・クリスマス忘年会(同)
	12月29日	冬休み(2010年1月5日も)
	1月19日	新年会
	3月16日	修了

④学習者同士の交流ができればいい、と話す賀根村代表、⑤運営面の強化を図りたい、と添田事務局長



た。利点は、人数の融通が利くこと以外に、学習者同士のかわりが持てることがある。テーブルを囲み教科リーダーを中心に同じ教材を共に学んでいる。ただ、習熟度に個人差があるため、複数の中では引つ込み思案になる学習者もいる。「グループかペアかではなく、いろんな形式があってもいい」という意見のスタッフは多い。

独自の教材作りも

こうした紆余曲折を経て同12月22日、あらためて総会が開かれ、53人の出席者によって規約と組織体制、予算が承認された。同7月に採択を受けた市からの補助金20万円は、文集や独自の教材作成費などに充てられることが示された。

組織体制の5部会のうち学習形式を考えたり、独自の教材準備などを進めている学習支援部会では、部長の北野慧子さん(63)を中心に独自の教材作りを進めている。元教員の北野さんは「長く組織の中にいたので、くるかいの運営も」そのイメージがある。

「前向きになれ楽しい」開校からほぼ皆勤の学習者2人は現在の思いをこう語る。国語で漢字や文字の書き方を学ぶ井戸川和夫さん(66)は家に帰ると復習を欠かさない。「くるかいに来て、酒の量が減った」という。くわいかいで字を書く練習を積み重ね今年、長年の目標だった岡山県にいる孫に初めて手書きの年賀状を書いた。「まあ、生きてる限り頑張るぞ」と笑顔で語る。

川村チエさん(77)は、英語を学んでいる。ローマ字からはじめ、疑問文、否定文など文法を学ぶ所まで来た。くるかいに来てから「あれは何て読むんだろ」と自ら英語を読んでもみようという気になったそうだ。「前向きになるとが楽しい。そして分かったときがすっごく楽しい」と目を輝かせる。冬場を迎え交通や体調などさまざまな理由で学習者の数は減っている。しかしまた、くるかいは土台ができたばかり。今後の活動に注目が集まる。